

人工授精—人工授精のベストタイミング

タイミング法では精子は頸管内にとどまるのである程度時間がずれても良いのですが、人工授精は頸管をバイパスして注入しているので行うタイミングが鍵となります。

ベストのタイミングを決定する根拠はエコーでの卵胞径、血中ホルモン値から判断します。

エコー検査について

一般的に卵胞は最初に10mmになった主席卵胞が生理8日目ころにみられます。この卵胞が一日約2mmずつ成長して17~27mmで排卵します。平均的には22mm程度が多いと思われます。なおクロミッドを内服した場合は排卵時期が遅れ27mmになるまで排卵しないケースが多いです。

血中ホルモン値について

血中のエストラジオール(E2)は通常1つの成熟卵胞だと200~250pg/mlになります。血中E2が上昇してくるとLHも上昇します。LHサージ開始から約32時間で排卵に至り、LHピークから16時間で排卵が起こると言われています。

最良のタイミングの決め方

これらの卵胞径、エストラジオール値、LH値から最適なAIHの日程を決める事が出来ます。

またhCG注射やGnRHのスプレーで排卵を惹起させることもできます。AIHを行う時間から逆算して注射やスプレーを投与します。最良のタイミングは投与後34~35時間です。また注射やスプレーをした方が排卵は確実に起こると言った理由があり、その方が有効なケースも多々あります。

当然自然周期とクロミッド周期では排卵のタイミングも異なり、また個人差もあり、周期により異なります。そのためAIHのベストタイミングを決めるためには、卵胞径、血中ホルモン値、基礎体温、普段の生理周期、おりもの状態等から総合的に判断していく事が大切と言えます。